

社会福祉法人イエス団賀川記念館 機関紙『ボランティア』



ボランティア

Vol.137



1923 年関東大震災時の写真
『賀川豊彦写真集』より

ボランティア 第137号



発行 2025年3月25日
発行所 社会福祉法人イエス団賀川記念館
発行者 馬場一郎

社会福祉法人イエス団賀川記念館
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20
Tel 078-221-3627 Fax 078-221-0810
E-mail office@core100.net
HP <http://core100.net>



賛助会費・寄附金のお願い

賀川記念館の事業は皆様によって支えられています。

賛助会費・寄附金を下さった方には寄附控除制度が適用されます。

賛助会費

【個人】 一口 1,000円より
【団体】 一口 10,000円より

寄附金

何円からでも可能

振込先

【ゆうちょ銀行】口座番号：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団賀川記念館

賀川記念館は以下の事業を行っています。

- ① 地域福祉事業（天国屋カフェ／外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室はいず）
- ② 福祉教育事業（ミュージアム／総合研究所）
- ③ 多機能型児童発達支援賀川記念館くじらぐも

コア一〇〇賀川記念講演会

二月一五日(土)に「コア一〇〇賀川記念講演会」が開催されました。講師は西義人さんでした。西義人さんは一九六七年に

灘神戸生協(現・生活協同組合コープこうべ)に入所され、各部課長、部長、常勤理事を歴任されました。また「賀川豊彦献身一〇〇年記念事業神戸プロジェクト委員会事務局顧問」を勤められ、現在は賀川記念館顧問として勤めています。

今年は一〇二五年が「阪神淡路大震災」より三〇年経過したこともあり、「賀川豊彦の思想と実践」そして阪神淡路大震災三〇年」と題してお話をいただきました。西さんは当時のことを回想しながら、震災に際しての事柄やこれからの社会についての思いを語ってくださいました。

●西さんの話より

一九九五年一月一七日に「阪神淡路大震災」が発生しました。コープこうべでも一一名の職員が亡くなるなど大きな打撃を受けました。全てが混乱する中で、各店舗では必死の復旧作業が行われました。本部からの指示が来ない中、飲食物を提供するなど、店長の判断で組合員のために対応をしました。また神戸市とは『緊急時における生活物資の確保のための協定』(一九八〇年より)を結んでいましたので、ヘリコプターの手配をしてもらって、神戸市民のために食品を提供しました。そのため震災当日及び翌日の救援物資の大部分がコープこうべからの支援物資でした。

コープこうべ(協同購入センター)の職員は、物資を運ぶのみならず、訪問組合員の安否確認に全戸訪問もしました。組合員の皆さんには、「コープの車が走っているだけだ、安心感があった」と言われたそうです。訪問先のお宅では、組合員が涙を流して、『よう来てくれた』と言ってくださいました。

震災後すぐに、全国の生活協同組合の仲間たちが、援助に駆けつけてくれました。コープこうべの本部が崩壊しているテレビ画面を見た全国の生協の仲間が、トラックで水や救援物資を積んで、続々と神戸に来てくれました。その上、救援物資の配達、遺体の輸送、自治体に入り込んでのボランティア、店舗での援助等をしてくれました。沖縄からはテレビを見た瞬間「とにかくコープこうべにいく!」と言

2024年度 コア100賀川記念講演会

賀川豊彦の思想 そして阪神淡路大震災30年



阪神淡路大震災が起きた1995年は「ボクランティア元年」とも呼ばれ、この年を機に「ボクランティア」という言葉が広まったと言われています。賀川豊彦は1923年の阪神大震災の翌日に東京に入り、生活支援を行いました。賀川豊彦と阪神淡路大震災から災害支援について見つめたいと思います。

2025年 2月15日【土】

時間 15:00~17:00

対象者 となたでもご参加いただけます

参加費 無料

会場 賀川記念館ホール
〒451-9076 兵庫県神戸市中央区東照町5-2-20 4F

講師 西義人 氏
賀川記念館顧問
1967年大学卒業後、神戸生協神戸地区(現コープこうべ)入所。部長・部長を経て、1993年常任理事、2007年より顧問。2007年 賀川豊彦先生顕彰プロジェクト実行委員会事務局顧問。2016年賀川記念館副館長に就任。賀川豊彦先生顕彰事業を経て、2021年2月顧問。

主催：コア100賀川(事務局：社会福祉法人イエス団賀川記念館)

って飛行機に乗り、その日うちにきてくれた方もいました。そんな生協の仲間達、延一万人の応援でした。嬉しかったです。

全国からの救援物資を集め、コープこうべの配送車や全国から支援に駆けつけた生活協同組合の配送車が神戸市内を回りました。

「『何もかも失い、家もつぶれてしまいましたが、人間にとつて一番大切な物を手に入れました』という言葉をよく聞きました。それは震災の中で感じた『心のふれあい』『心の通い合い』で

した。『お互いに喜び合い』『励まし合い』『助け合う』『共に一緒に』というコップこうべが組合員と職員が育ててきた心の再発見でした。二〇一一年には「東日本大震災」が発生しますが、ここでも生協の『励まし合い』『助け合い』『共に一緒に』の行動がマスコミに取り上げられました。これは日本が育ててきた協同組合の本質です。

●賀川豊彦からつながる働き

賀川豊彦は一九二一年に「生活協同組合コップこうべ」の前進である、「神戸購買組合」と「灘購買組合」を創設しました。市民の手による生活協同組合としてこれまで神戸市民の生活を支えてきました。また、一九二三年に発生した関東大震災の翌日には、関東へ向かいます。そして、住み込み地域の人々と共に生活を立て直す仕事をしました。賀川は「災害ボランティア」という言葉を用いて、ボランティアについて広めたとも言われています。



活動場所や活動内容は違えども、その根本には「生活を支える」ということがあるのだと思います。この視点は今も脈々と引き継がれています。西さんは「賀川先生が今、居られたら我々に何と言われるか」と問いかけられました。賀川記念館として、賀川豊彦の精神と事業を引き継ぐものと

して、何をすべきかを考えていきたいと思っています。

お知らせ

●賀川豊彦召天六五年記念集会

一九六〇年四月二三日に賀川豊彦は天に召されました。毎年四月には賀川豊彦の働きを覚えて記念集会をしています。今の

時代に賀川豊彦が生きていたら何をしたらでしょうか。講師の話の聞き、考えたいと思います。

日時…四月二六日(土)

講師…小澤昌甲さん

(神戸YMCA)

テーマ…天と地をつなぐ働き人として　くあれから三〇年…その時から新しい生き方?は今

詳細はホームページ等に掲載いたします。皆様のご参加お待ちしております。

講演会・研修会のご案内

当館では研修会及び講演会などのご依頼をお受けいたします。

◎当館の研修は、「賀川豊彦の思想と実践」、「賀川記念館（イエス団）における社会福祉実践」、「現代社会における福祉課題」、「人権」など、ご希望に合わせた研修を実施させていただいております。

これまで、生活協同組合、労働組合、共済の各団体をはじめ、人権団体、大学などの研修・授業にもお使いいただいております。お気軽にお声かけください。

月	日	曜日	団体	
1	11	土	三木市立総合隣保館	講演
1	15	水	こくみん共済愛知推進本部	講演
1	15	水	日本生協連	見学
1	16	木	みやぎ生協元理事	講演
1	21	火	こくみん共済愛知推進本部	講演
1	23	木	成徳小学校	学習講演会（出前）
1	24	金	平野小学校	学習講演会（出前）
2	13	木	こくみん共済愛知推進本部	講演
2	16	日	ひょうご部落解放人権研究所	講演
2	21	月	JP労組泉州南支部	見学
2	27	木	奈良県生協連	講演
2	28	金	大池小学校	学習講演会（出前）
2	28	金	箕谷小学校	学習講演会（出前）
2	28	金	とちぎコープ	講演

●ミュージアム

〈来館者〉（二月～二月）

一月 一五四名

二月 七九名

来館団体…一〇団体

福祉教育事業

小学校での学習を経て、賀川記念館を訪れてくださる家族がいます。「子どもがぜひ行きたい」と言っていたので来ました」と教えてくださいます。多くの保護者は子どもを通して賀川豊彦の働きについて知るようです。

●語り部活動

賀川記念館には、賀川豊彦の働きを伝えるためのボランティア「語り部」がいます。現在は四名の語り部が活躍しています。二〇二〇年からは神戸市の小学校四年生社会科副読本に賀川豊彦のことが掲載されたことから、学習講演会を実施しています。各小学校を訪問して実施したり、賀川記念館にお越しいただいたりしています。今年度からは神戸市教育委員会の「ゲストティーチャー制度」に採択

されました。語り部の皆さんが小学生に伝わるように一生懸命考えてくださりながら取り組みを続けています。また現在の「語り部」は生活協同組合コープこうべの組合員理事を経験された方々で、コープこうべの組合員向けの研修会も担当していただいています。同じ組合員から話を聞くことで、より賀川豊彦の存在を身近に感じていただいているようです。

毎回の研修会では小学校学習講演会の準備に加え、「坂井良次研究会」と称して、「第四回農民福音学校」の筆記ノートを教材に、賀川豊彦の働きや「農民福音学校」で教授されていたことを学んでいます。賀川豊彦から当時どのようなことを学んでいたのか、現代社会でどのように活かせるのかを考えたいと思います。

2024年度語り部研修概要

日附	内容
4月23日	小学校学習講演会について、作文コンクールについて 組合員向けの講演について 坂井良次研究会
6月20日	小学校学習講演会について、組合員（コープ委員会等）向けの講演 坂井良次研究会
8月29日	小学校学習講演会について、坂井良次研究会
10月10日	小学校学習講演会について、坂井良次研究会
1月23日	小学校学習講演会について、作文コンクールについて 坂井良次研究会

地域福祉事業

●天国屋カフェ

二〇一〇年に開設された天国屋カフェは、二〇二五年で一五周年を迎えます。一九一〇年、賀川豊彦は「安価で栄養価の高い食事を提供したいと「天国屋」という一膳飯屋を開設しました。しかし残念ながら三ヶ月で潰れてしまいました。

本来なら、二〇二〇年に一〇周年記念事業を行いたかったのですが、新型コロナウイルスの影響から大きな記念事業をすることが叶いませんでした。一五周年では以下の計画をしています。

① これまでの記録をまとめる

二〇一〇年、天国屋カフェが開設されました。予算なし、人材なしの完全ボランティアから始まった天国屋カフェも十五周年を迎えます。これまで、ボラ

ンティアをはじめ多くの方にお支えいただきました。天国屋カフェの働きを引き継いでいくためにも、これまでの働きを記録としてまとめます。

② 一五周年記念講演会

天国屋カフェが地域に開かれた場所となるように。地域福祉への新たな挑戦として、十五年の記念講演会を開催します。

講師及び内容については決まり次第お知らせいたします。

③ ビジョン作成

天国屋カフェが持続可能な形で引き継いでいけるように長期ビジョンを作成します

④ フィリピンツアー

天国屋カフェのコーヒー豆はフィリピン産のフェアトレードコーヒー豆を使用しています。実際に産地を見学したいと思えます。コーヒーの豆をめぐる学習ツアーです。



賀川豊彦はかつて「地域の人々に安価で栄養価の高い食事を提供したい」と「天国屋」を開設しました。その思いを引き継ぎ営業を行っていますが、物価高騰が止まる兆しがありません。悔しいところですが、他のメニューの値上げも検討しているとあります。皆様にお知恵を頂戴したいと思っています。また生きづらさを抱えた人々の安心安全な居場所となるように精一杯努力して参ります。

- ✓ 天国屋カフェでは、独自の就労支援（B型モデル）を実施しています。また近隣の就労継続支援B型事業所の働き場や「こうべ若者サポートステーション」からの就労体験などを受け入れています。
- ✓ 天国屋カフェでは「天国屋ひろば」（オープンスペース）を実施しています。地域に開かれ、人と人がつながる地域のコミュニティ拠点でありたいと願っています。

この経費は皆様からの寄附やアメリカのユナイテッド・メソジスト・チャーチからの献金によって実施しています。感謝申し上げます。（721,093円：2025年2月末時点）

●外国にルーツをもつ子どもの学習支援 はいず

二〇二四年一月現在、神戸市中央区では人口の約一一パーセントが外国人の方です。(総人口約一二万人中、外国人人口約一万四千人)神戸市人口動態デ

賀川記念館はいず (2025 年 2 月 28 日)

<参加者>

参加人数：31 名 (小学生 20 名、中学生 2 名、高校生 3 名、保護者：6 名)
ルーツ別：中国、アフガニスタン、ネパール、インド
フィリピン、ベトナム

<スタッフ>

職員：1 名
ボランティア：30 名
社会人 (リタイア含む)、大学院生、大学生、高校生

ータ)賀川記念館はいずでも中国出身の方を中心に、問い合わせが増えていきます。一二月末でベトナム出身の方二名が転出し、新たに中国出身の子どもとネパール出身の子どもが勉強をはじめました。少しずつ日本語を話し、コミュニケーションを楽しむ姿を見て嬉しく思っています。

昨年、「寄附のお願い」を皆様にお配りしました。二〇四、五五三円(一月末現在)の寄附を頂戴いたしました。感謝申し上げます。教材費やボランティア交通費に使用させていただいています。来年度も同じように「寄附のお願い」をさせていただきま

【嬉しい報告】

ボランティアの方二名が「日本語教員試験」(*)に合格されました。日本語学習支援を支えていただいています。またこれまで日本語教育に携わって来られ

た方も複数名おられます。ボランティアでありながら専門的な知識と技術を持って賀川記念館はいずを支えてくださっています。



(*)「日本語教員試験」は二〇二四年四月から国家資格化された「登録日本語教員」になるために必要な試験です。「日本語教員試験」は認定日本語教育機関で、日本語教師(登録日本語教員)として働く上で、必要な知識・技能・実践的な技術が備わっているかを測ることを目的としています。これまで日本語教育に関わる国家資格はありませんでした。今までは①二〇時間の日本語教師養成講座を受ける。②「日本語教育能力検定試験」に合格する。③大学で日本語教育を履修するといった養成ルートを経た方が日本語教育を担っていました。(今後も民間組織では養成ルートを経た方が多くの部分を担うことになると思います)

●多機能型児童発達支援 賀川記念館くじらぐも

土曜日のイベントではクッキングとものづくりや遠足・地域イベントの参加など行なっています！

◎クッキングでは、初めて食べる料理を作ってみたり、イベントに合わせたメニューを作ったりします。子どもたちの多くは色々と食材を手にして作業することが楽しい様子で参加しています。初めて食べる料理もあって恐る恐る口にする子や、「美味しい！！」と言ってくれる子もいて食事を通して得られる関わりを大切にしています。また作業が苦手な子や抵抗のある子に対しては個々のペースで参加できるよう、みんなで協力してクッキングを楽しんでいます。

◎ものづくりは季節行事に合わせて工作を行っています。手先を動かし難しい工程もみんなが助け合いながら挑戦しています。



自分のオリジナルな作品を作ることが好きな子も多く、おもしろい作品が出来上がり、いつも予



想を超えた作品ができるので職員も驚くことが多いです！
子どものもつ発想力を生かしながら自分の考えていることを作品に表現し、ものづくりを通して様々な関わりをもつことができます。◎行事や遠足では、周辺地域の児童館や教会のイベントに参加したり、くじらぐも恒例行事（長期休みの行事）を行なったりと子どもたちと楽しめるような行事を企画しています。放課後ではできないようなイベントを行うことで、楽しく過ごせる時間や居場所を作

2024 年度 行事概要

4 月	カレーとナンづくり 鯉のぼり工作	10 月	ハロウィンクッキーづくり キーホルダー・しおり工作
5 月	フレンチトーストづくり あじさい工作	11 月	ビビンパづくり 賀川記念館マルシェ
6 月	チヂミづくり リボン花火	12 月	クリスマス会・礼拝 生田川児童館とカフェ
7 月	生田川児童館夏祭り遠足 御影神愛教会キッズフェスタ遠足	1 月	豚汁 凧作り・凧揚げ
8 月	焼肉パーティー	2 月	オリジナルパフェ 雛人形
9 月	ピザ・ホットケーキづくり さくらサーカス遠足	3 月	どうぶつ王国 お別れ会

り、日々頑張っている子どもたちが思いっきり楽しめることを考えて実施していきたいと思っています！（ふ）

上内鏡子牧師の聖書の話



「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす」

ルカによる福音書 19 章 37 節～40 節

「石が叫ぶ」そのインパクトはとても大きいものです。自由や権力を奪われ続けていた人々が押し込められていた感情を爆発させた叫びこそ石の叫びだからです。イエスは弟子たちの先頭に立ちエルサレム(平和の礎)という意味を目指しました。その姿は平和の実現を固く誓った決意に満ちた姿でした。そして、人々は心熱くして声高らかに神を賛美し始めます。イエスはこのあと、抑圧者と権力者によって十字架の上で生涯を閉じることになります。そのことを踏まえて、イエスの並々ならぬ決断と緊迫した状況を察知する弟子たちの思いは、石ころとなって叫び出すことを衝撃を持つて受け止めざるを得ません。だから同時に、この世の力に負けることなく、天に向けて発せられる勝利の叫びともなるのです。

今の時代、激化する戦争や権力者による民衆の弾圧など世界各地で起きています。日本でも差別やハラスメントが横行し、武力を使わないまでも多くの犠牲者が生み出され続ける理不尽な社会にわたしたちが生きているのです。口を噤み、黙って現実を静観しようとしても、石が叫び出すのです。その叫びは痛みや苦しみを経験する人びとの嘆きであり憤りであると同時に、希望と平和の実現を求める叫びでもあるからです。

イエスは、これらの叫びを十字架の上の死をもって引き受けます。その姿こそが十字架へ向かうイエスの姿なのです。だから、苦しみの中から新しい命を生み出すイエスに従って、弟子たちがそうしたようにわたしたちも平和の礎(エルサレム)に向かって歩みたいものです。

小豆粥

とっておき

天国屋カフェのレシピ



【材料】

小豆 30g

米 1/2 合

塩少々

【作り方】

小豆は一度茹でこぼし、柔らかくなるまで煮ます。

米を 600 ccの水に入れ、煮た小豆とともに炊きます。

これは京都の伝統的な小正月(女正月)のメニューです。年末年始に忙しくしていた女性たちをねぎらうため、1月15日に行われた行事食と言われています。年末年始忙しいのは女性たち(男性は何をしていたの?)のみ?そして、「女性たちをねぎらうため」の小豆粥を作っていた(る)のは誰なののでしょうか?……なんてことを考えながら美味しくいただきましょう。

塩をお好みで入れてください。お餅を入れてもおいしいです。おかゆの硬さはお好みで。おなかにやさしいおかゆです。(い)

【編集後記】

「阪神淡路大震災」から三〇年を迎える。一九九五年一月一七日に発生した未曾有の地震により、多くの別れと悲しみを経験した。各地域や各団体で懸命な救援活動が行われた。▼賀川豊彦は一九二三年の「関東大震災」の際に、いち早く被災地に向かい活動をした。東京本所にピラミッド・テントを設置し、そこを拠点に救援活動を広げていくこととなった。その活動は、『励まし合い』『助け合い』『共に一緒に』という活動そのものだったのではないだろうか。▼生活協同組合コープこうべと同様に、イエス団でも多くの施設が被害を受けた。賀川記念館では、沖田康孝牧師(当時)と祐村さん(当時杉の子保育園園長)を中心にして賀川記念館周辺の救援活動が展開されたという。一九九五年八月に発行された『ボランティア』(第六二号)には当時の様子が生々しく描かれている。ここに描かれる当時の姿も『励まし合い』『助け合い』『共に一緒に』ということが大切にされていると感じられる。▼日本では多くの自然災害が起きている。年々、科学技術は発展し、災害に対する技術も格段に進化している。同時に、災害が起きるたびに、人と人とのつながりの重要性を思い知る。その度に人と人がつながり、『励まし合い』『助け合い』『共に一緒に』生きていけるような社会を作っていきたいと思うのである。願わくは、賀川記念館がその拠点でありたい。(お)